

会員各位

「超音波胎児計測の標準化と日本人の基準値」の誤植について(お詫びと訂正)

2003年3月に公示いたしました「超音波胎児計測の標準化と日本人の基準値」(学会誌第30巻30号 P. 415～P. 430、及びホームページに掲載)につきまして、今般、P. 436に掲載している「II. 胎児BDP・FL・ACの計算法と妊娠周波数毎の基準値」の「4-3. 発育曲線」に記載しているACの回帰式につきまして、SDの項に誤植がございましたので、以下のとおり訂正させていただきます、ここにお詫び申し上げます。

P. 436 「4-3. 発育曲線」の項

$$\begin{array}{ll} \text{(誤)} & AC = -4.96 + 1.19 \times 10^{-1}GD + 2.45 \times 10^{-4}GD^2 - 7.00 \times 10^{-7}GD^3 & \text{(Mean)} \\ & \quad \pm 1.90 \times 10^{-1} + 6.80 \times 10^{-3}GD & \text{(\pm SD)} \end{array}$$

↓

$$\begin{array}{ll} \text{(正)} & AC = -4.96 + 1.19 \times 10^{-1}GD + 2.45 \times 10^{-4}GD^2 - 7.00 \times 10^{-7}GD^3 & \text{(Mean)} \\ & \quad \pm 1.90 \times 10^{-1} + 6.80 \times 10^{-3}GD & \text{(\pm SD)} \end{array}$$

日本超音波医学会  
用語・診断基準委員会  
委員長 貴田岡正史